

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題

主体的にコミュニケーションを図る生徒の姿を求めて

～単元終末の活動への見通しをもつことができる単元学習シートの工夫と対話的な活動を通して～

### (2) 主題設定の理由

新学習指導要領において、中学校の英語科では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域ごとに、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成し、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが目標となっている。「思考力、判断力、表現力等」を育成していくためには、「知識及び技能」を、実際に英語を用いた言語活動において活用することが求められている。

しかしながら、語彙や文法、表現などの知識だけを身に付けていても、自分が伝えたいことを上手く表現できないため、英語が苦手だと感じたり、嫌いになったりする生徒も少なくない。したがって、主体的に仲間とコミュニケーションを図ることを通して、自分の考えや気持ちなどを繰り返し伝え合うことが大切であると考えている。そのため、単元導入時に、「自分は〇〇について話せるようになりたい。」などという魅力ある活動（単元を貫く課題の設定）を示すことで、生徒は主体的に授業に取り組むことができると捉えた。そして、単元終末の活動への見通しをもたせる単元学習シートを作成することによって、その主体性を育むことができると考えた。また、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」は生徒が実際に英語を使用した言語活動の中で育成される。そのためには、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動の充実が必要となる。対話的な言語活動を繰り返し行うことで、主体的にコミュニケーションに取り組む生徒を育成したいと考えた。これらの理由から研究主題を設定した。

### (3) 目指す生徒の姿

身に付けた知識及び技能を駆使して、自分自身の考えや気持ちなどを伝えることを躊躇せず、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒

## 2 研究内容について

### (1) 研究仮説

生徒が単元終末の活動を行うために、単元の学習の見通しをもつことができる単元学習シートを工夫したり、対話活動の場면을毎時間位置付けたりすることで、主体的にコミュニケーションを図る生徒を育成することができる。

### (2) 研究内容と具体的な手立て

#### ① 生徒自身が目標と見通しをもつことができる単元学習シートの工夫

- ・単元ごとのワークシートと振り返りシートを冊子にまとめた単元学習シートの作成
- ・単元の終末の活動に向けたワークシートの作成

#### ② 毎時間における対話活動の位置付け

- ・帯活動としての Small Talk の位置付け
- ・本文内容理解における Retelling や交流方法の工夫

### 3 実践事例

#### (1) 実践1 (研究内容①に関わって)

##### ①單元ごとのワークシートと振り返りシートを冊子にまとめた單元学習シートの作成

生徒自身が、単元の学習の見通しをもつことができるように、単元で活用するワークシートを冊子にしている。冊子にすることで、単元の導入から終末までの見通しをもつことができる。また、振り返りシートを表紙に位置付けることで、本単元で身に付けたい力、一単位時間の授業のねらいなどを、ワークシートを参照しながら、授業に取り組み、振り返ることができる。この單元学習シートを毎時間後に回収し、ワークシートに書いた英文や振り返りシートに書いた振り返りをチェックし、定着状況の見届けをするとともに、実態を把握し、次時の授業に活かすことができる。

##### ②単元の終末の活動に向けたワークシートの作成

<單元名：第2学年 *New Crown 2 Lesson 4 Enjoy Sushi*>

本単元では、単元終末の活動として、ALTに自分がおすすめる都道府県を紹介するという活動を設定した。そこで、本単元の導入として、“Let’s Listen 3 観光案内”を使って、奈良県と長野県についての観光案内所での説明を聞くことで、本単元で必要な文法や表現方法に気付かせ、終末の活動に向けての目標と見通しをもたせた。そして、教科書の内容を順番に進めていき、There 構文と動名詞の言語材料を習得させ、活用できるようにさせた。

##### ◆作成するときの留意点

- ・単元の目標に向かって、段階を追いながら進めていけるように各単位時間の内容を以下のように設定した。

第1時	観光案内所での説明を聞いて、本単元で必要な文法や表現方法に気付き、終末の活動に向けての目標と見通しをもつ。
第2時 第3時	Get Part1 の本文を通して、There 構文を習得し、Practice の時間に、紹介したい都道府県には何があるかについて、There 構文を用いて表現する。
第4時 第5時	Get Part2 の本文を通して、動名詞を習得し、Practice の時間に、紹介したい都道府県で何をして楽しむことができるのかについて、動名詞を用いて表現する。
第6時 第7時	Use-Read では、日本の食べ物についての紹介文の読み取る活動を通して、紹介したい都道府県の特産物などについて表現する。
第8時	There 構文と動名詞についての問題を解き、本単元の文法の理解を深める。
第9時	ALTに自分がおすすめる都道府県を紹介する。

##### ・弾丸インプットの内容

裏表紙には、弾丸インプット（ペアになり、一人が日本語を読み、もう一人がその英語を読む活動）ができるプリントを印刷し、2分前活動の時間に行っている。また、その内容も本単元で学ぶ文法や表現が中心となっており、対話活動時に何を話せばよいか困っている生徒が参考にできるようにしている。

<單元名：第3学年 *New Crown 3 Project 3 ディスカッションをしよう*>

本単元では、単元の終末の活動として、付録の Further Reading 1 “A Vulture and a Child”を題材に選び、ハゲワシが少女を狙っている状況での Kevin Carter の行動の是非についてグループでディスカッションする活動を設定した。

##### ◆作成するときの留意点

- ・単元終末の活動に向かって、段階を追いながら、学習を進めていけるように各単位時間の内容を以下のように設定した。

第1時	本単元の導入として、健たちの“city life”と“country life”についてのディスカッションを聞き、本単元で必要な文法や表現方法に気付き、終末の活動に向けての目標と見通しをもつ。
第2時	健たちの考えを参考にしながら、同じテーマについて自分たちでディスカッションをする。

第3時 第4時	「学校のランチについて」、「旅行に行く場所について」という異なるテーマで、ディスカッションをする。
第5時	“A Vulture and a Child”の前半部分を読み取り、Kevin Carterの行動について、自分の考えを付け加えながらRetellingする。
第6時	“A Vulture and a Child”の後半部分を読み取り、Kevin Carterの別の選択肢について、自分の考えを付け加えながらRetellingする。
第7時	Kevin Carterの行動の是非についてグループでディスカッション。

・弾丸インプットの内容

弾丸インプットの内容は、ディスカッションに必要な文法や表現が中心となっており、ディスカッションする時に何を話せばよいか困っている生徒が参考にできるようにしている。

## (2) 実践2 (研究内容②に関わって)

### ①帯活動としての Small Talk の位置付け

<単元名：第2学年 New Crown 2 Lesson 4 Enjoy Sushi>

英語は、保健体育のような技能教科と呼ばれる教科と同じように、活動を通して身に付く内容が多いと考えている。そこで、年間140時間の中で、対話活動(英語を聞いたり、話したりする時間)を十分に確保したいと考えた。そのために、2分前学習の弾丸インプットとは別に、毎時間帯活動として Small Talk を位置付けて、生徒が自分の考えや気持ちを英語で表現しようとする時間を確保した。また、3パターンのペアを作り、ローテーションすることで、多様な考えや表現に触れ、取り入れることができると考えた。

### ②本文内容理解の時間における Retelling や交流方法の工夫

本文内容理解の授業では、もちろん、一文一文を日本語に訳していくのではなく、生徒の実態や英文の難易度に合わせながら必要に応じて説明する方法を取り入れている。その後、何度か音読練習(Repeat→Pair→Chorusなど)をし、Retellingを行っている。Retellingでは、本文の内容をまとめながら、自分の考えも相手に伝えるようにしている。途中でSharing Timeの時間を設け、反復練習をしていくことで、対話した内容がより正確で具体的な英文にした。

<単元名：第3学年 New Crown 3 Project 3 ディスカッションをしよう>

#### ①Discussion 前半

「自分以外だれもできない」って言うと、もっと考えを伝えられるんだけどな。

#### ②Sharing Time

“No one else could ~.”を用いれば、表現できるんだ。

〇〇さんは、相手の主張に共感しながら聞いていたから、自分もよく相手の話を聞こう。

#### ③Discussion 後半

自分の考えをより強く正確に主張することができた。

〇〇さんのように相手の考えにも共感しながら、自分の考えを主張することができた。

また、英語の時間は、生活班ではなく英語の授業専用の班を作っている。基本的には、3~4人の生徒で一つのグループが構成されている。テストの点数、コミュニケーションに対する積極性、人間関係などを考慮して、班編成を行っている。2、3人との対話活動での場面でもこの班で行っている。そして、Retellingや対話活動などで話したことを書きまとめた英文も、その班でPeer Checkをしている。

### ◆Peer Check を行うときの留意点

①グループ隊形にする。

②視点を与え、この時間で特に正確に押さえたい部分を確認する。

③一人のワークシートをグループメンバー全員でチェックしたり、助言したりする。

④チェック後に再構築を行う。

< 単元名：第3学年 *New Crown 3* Lesson 4 The Story of Sadako >

Emma is in shock. Because she go to the Hiroshima Peace Memorial Museum. Many people have felt that way. But it's important for us to see the reality of war. We can learn from the experiences of the past. So I want to go to there. I think can learn about war and peace.

Peer Check 後

Emma is in shock. Because she went to the Hiroshima Peace Memorial Museum. Many people have felt that way. But it's important for us to see the reality of war. We can learn from the experiences of the past. So I want to go there. I think I can learn about war and peace.

#### 4 成果と課題

##### 【成果】

- 単元ごとのワークシートを作成したことで、教師だけではなく、生徒たちも終末の活動に向けて一つ一つの活動に主体的に取り組むことができた。
- 3年生の生徒12人に「単元ごとのワークシートは役に立ったか。」アンケートを行ったところ、  
①とても役に立った・・・9人      ②少し役に立った・・・3人  
③あまり役に立たなかった・・・0人      ④不要だと思う・・・0人  
という結果を得た。その理由の中には、「次に何をすればいいのか分かって効率よく授業を進めることができた。」「前の時間にした内容などが積み重なっていくので、すぐに振り返ることもできたし、復習もしやすかった。」などがあり、生徒が一単元、一単位時間の見通しをもち、主体的に授業に取り組むことができた。
- Small Talk では、最初は何を伝えればよいか迷って相手に自分の考えを伝えることができなかったが、毎時間繰り返しを通して対話活動を行うことで自分の考えを主体的に伝えようとする姿勢が見えてきた。
- Retelling の実践を通して、本文の内容を一文一文の理解にこだわるのではなく、概要を考えられるようになってきた。また、その内容についての自分の考えを伝えられる生徒が多くなってきた。

##### 【課題】

- ▲Small Talk では、自分の考えは相手に伝えられるようになってきているが、聞き手側の反応や応答などが一言反応や繰り返しだけになってしまい、やり取りになっていないペアも見られる。
- ▲本文が長くなっていくと、Retelling の時間が十分に確保できないときもある。
- ▲振り返りシートの生徒の記述をチェックすると、「動名詞の使い方がよく分かった。」「本文の内容をまとめることができた。」などの内容が多い。しかしながら、これらの記述は具体的ではないので、本当にどこまで理解し、定着できているか把握できない。

#### 5 課題克服のための今後の方向

上述の課題を克服するために、以下の3点について取り組んでいく。

- ・対話活動のときに、話し手だけが考えながら話すのではなくて、聞き手も話し手の内容を聞いて、関連質問や関連発話などができる生徒を育成していく。
- ・語彙力の向上、速読の練習をしていく。
- ・「動詞を2つ使いたいときは、2つ目の動詞に-ingをつけて動名詞にすれば表現できることが分かった。」  
「丘先生の街には、すし屋が数軒あることや英語のメニューが置いてあるすし屋について、there 構文などを用いて相手に説明できた。」など、この時間で何がどのように分かったか、何ができるようになったかを言葉で振り返ることができる生徒を育成していく。